

5 徳島県立文学書道館 事業実績

文学・書道資料の収集・保存、調査研究に努めるとともに、その成果を展示や催し、教育普及事業等に活かし、広く県内外から親しみ利用される施設となるよう魅力ある事業展開を図った。

(1) 顕彰、表彰事業【経費 1,134千円】

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
1	第13回とくしま文学賞	<p>広く県民から文芸作品(10部門)を募集し、発表の場を提供することにより、文芸活動の活性化、県民文化の向上を図った。今年度は、小説32人、脚本2人、文芸評論9人、児童文学15人、随筆62人、現代詩220人、短歌440人、俳句814人、川柳159人、連句40人の計1,793人から2,658点の応募があった。各部門の入選作品は「文芸とくしま」に掲載し、紹介した。</p> <p>表彰式:平成28年2月11日(木・祝) 応募者数:1,793名 応募作品数:2,658点 会場:ギャラリー</p>	1,133,998	-
	小計		1,133,998	0

(2) 年鑑編集・刊行事業【経費 521千円】

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
1	ことのは文庫 「文学に描かれた戦争 —徳島大空襲を中心に」	<p>戦後70年に当たり、瀬戸内寂聴、森内俊雄、富士正晴、海野十三の戦争体験をつづった作品4編を収録し、戦争の悲劇が二度と繰り返されてはならないことを伝えた。</p> <p>文庫本サイズ 1,000部 販売価格:400円</p>	312,940	-
2	研究紀要「水脈」13号	<p>館が所蔵する文学者や書家に関する作品や資料等の調査研究を行い、その成果を紹介するため刊行した。</p> <p>B5版サイズ 700部</p>	207,900	-
	小計		520,840	0

(3) 教育普及育成事業【経費 1,579千円】

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
1	文学講座 芸術・文化を語る	<p>徳島ゆかりの芸術家、研究者、文化人に専門分野のお話をしていただき、平和で心豊かな社会の創造について共に考える講座。徳島大学教授の饗場和彦氏、詩人の清水恵子氏、映画監督の蔦哲一朗氏、NPO法人理事長の大南信也氏を迎えた計4回の講座は、各講師の専門家ならではの見識と豊富な経験に学ぶところが多く、いずれも充実したものとなった。</p> <p>日時:平成27年4月～7月(全4回・各土曜) 受講者数:170名 受講料:無料 会場:講座室</p>	155,904	0

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
2	文学講座 言の葉テーマ朗読会	<p>展覧会に即したテーマで朗読会をおこなった。5月「寂聴作品を読む」、8月「文学に描かれた徳島大空襲」、1月「柴門ふみのエッセイを読む」。講座生がよく内容を読み込み、伝わる朗読ができていた。</p> <p>日時:平成27年5月～平成28年1月(全3回) 受講者数:123名 受講料:無料 会場:講座室</p>	7,880	0
3	文学講座 若い人たちのための小説家養成講座	<p>文芸誌の新人賞に応募し、作家デビューを目指す講座。8～9月に、現代文学がどのようなもので、今求められている作品がどんなものであるのかを講義した。そして小説を書く技法について学んだ。その後、受講生は作品を執筆。2～3月に、原稿用紙50～100枚程度の作品を提出して、講師と受講生が講評した。それぞれ作者の個性が光る佳作で、受講生からも好意的な意見が多かった。</p> <p>日時:平成27年8月～平成28年3月 (全9回・各土曜) 受講者数:173名 受講料:無料 会場:講座室</p>	175,500	0
4	文学講座 親子で楽しむ絵本づくり	<p>県南に移り住み、多くの優れた絵本を生み出している梅田俊作・佳子夫妻を講師に迎え、飛び出す絵本づくりの基礎を学び、折り紙や絵の具で自由に絵本づくりを楽しんだ。</p> <p>日時:平成27年8月23日、30日(全2回・各日曜) 受講者数:71名 受講料:無料 会場:講座室</p>	115,023	0
5	文学講座 徳島の文学を楽しむX	<p>阿波十郎兵衛、金長狸など、徳島に残る民話や伝説を紹介した。また、『日本霊異記』や『今昔物語集』に書かれた徳島が舞台の話、「お亀千軒」から三好市の「とろかし草」、小松島市の「田能久」など徳島の昔話も取り上げた。徳島には古くからの貴重な物語が数多く残っている。徳島ならではの伝説を大切にしまつと徳島を盛り上げていきたいと話した。</p> <p>日時:平成27年9月～12月(全4回・水曜) 参加者数:53名 受講料:無料 会場:講座室</p>	47,280	0

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
6	文学講座 寂聴文学を楽しむ	瀬戸内寂聴の短編を中心に、音読しながら読み深め、感想を述べ合う形で進めていった。4回にわたり、寂聴の短編集『終りの旅』から、雑誌「旅」に掲載された「岬へ」「朝市の占い師」「旅の終り」「ロマンティック街道」を取り上げ、関連作品や登場する芸術家を紹介しながら、紀行文的な小説を味わっていった。参加者からは「この小説を通じて、一人の女性とともに旅をしているような気がした」「寂聴さんをただ漠然としか識らなかったのですが、より深く識ることができて幸運でした」などの感想が寄せられた。 日時:平成27年9月～12月(全4回・各水曜) 受講者数:44名 受講料:無料 会場:講座室	0	0
7	第14回言の葉朗読会	出演者14人が、読みたい文学作品の一部を5分以内で朗読した。古典的な作品から、現代のコミカルな作品まで、それぞれに工夫し、楽しく、また情感豊かに読み、聞いている人から、その本を読んでみたいという感想も多く聞かれた。 日時:平成27年9月26日(土) 受講者数:34名 受講料:無料 会場:講座室	12,490	0
8	秋の文学講演会 I 『日本文学全集』の作りかた一文学でわかる日本人の性格	作家、詩人で北海道文学館館長でもある池澤夏樹氏の先祖は徳島藩稲田家の家臣であり、小説「静かな大地」はその先祖の物語に題材を取ったことをはじめ、2011年に完結した『池澤夏樹＝個人編集 世界文学全集』や14年から刊行がはじまった『池澤夏樹＝個人編集 日本文学全集』が出来た経緯について語った。また日本人は恋愛が好きだということが文学からわかるなどと話した。 日時:平成27年11月22日(日) 受講者数:161名 受講料:無料 会場:ギャラリー	422,889	0
9	秋の文学講演会 II 「本を読むこと、故郷を書くこと」	「九年前の祈り」で第152回芥川賞を受賞した小野正嗣氏を招いた。小野氏はこれまで自分の故郷、大分の湾に面した海辺の土地を題材にして小説を書いてきた。ひとつの土地の物語に耳を澄まして書き続けている思いや、教養とはなにかということ、本を読むことについてなど、軽妙におもしろく語ってくれた。 日時:平成27年11月29日(日) 受講者数:98名 受講料:無料 会場:ギャラリー	225,698	0

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
10	書道講座 美しいペン字	<p>1回目は、鉛筆・ボールペン・万年筆の特徴や持ち方の説明の後、柔らかく書きやすい6Bの鉛筆で、ひらがなの基本、漢字の基本点画や構成を練習した。2回目は、万年筆またはボールペンを使用し、横書きや葉書の表書きを美しく書く方法を学んだ。受講生には今回の成果として横書きの清書を提出してもらい2階廊下に展示した。計3時間の講座であったがペン字の上達がみられた。</p> <p>日時:平成27年6月～7月(全2回・各日曜) 受講者数:36名 受講料:無料 会場:実習室</p>	41,238	0
11	書道講座 夏休みに学ぶ 漢字の成り立ち	<p>中学生以上を対象とした夏休み書道講座。白川静氏の文字学をもとに、象形や会意などに代表される漢字の体系的な学習の方法を成り立ちとともに講義した。また、講師の専門分野である文学においては、村上春樹氏の作品の漢字学的な表記について紹介・解説をした。受講生の反応も上々で、講座修了後に講師の著書について問い合わせをしている方も多く見られた。</p> <p>日時:平成27年8月2日(日) 受講者数:45名 受講料:無料 会場:講座室</p>	157,960	0
12	書道講座 小さい印を作ろう	<p>今回の篆刻講座は、12ミリ角の小印材に名前の一文字を刻した。講師より手順の説明の後、各自で作業を進めていった。小さい印のため難しかったが、講師の丁寧な指導によって、見事な印が仕上がった。作品は2階廊下に展示した。</p> <p>日時:平成27年9月(全2回) 受講者数:24名 受講料:無料 材料費実費 会場:実習室</p>	39,600	0
13	書道講座 祈りの書～写経～	<p>写経未経験の方対象の講座。最初にその作法や書写上の基本的な知識、誤字や脱字などの訂正法を学んだ。手本としたのは講師が用意した奈良時代の隅寺心経。はじめはおぼつかなかったが、家庭での練習もあって、わずか3回の講座であったが大きな成果をあげることができた。作品は2階廊下に展示した。</p> <p>日時:平成27年9月(全3回) 受講者数:58名 受講料:無料 会場:実習室</p>	60,596	0

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
14	書道講座 干支印を作ろう	平成28年の干支「丙申」印を制作した。はじめに、講師より制作手順についての説明があり、その後作業を進めていった。3cm角の印材に、初心者は白文印(文字を彫る)を、経験者は朱文印(文字の周りを彫る)を制作した。丁寧な指導もあって見事な印が仕上がった。作品は2階廊下に展示した。 日時:平成27年11月(全2回) 受講者数:18名 受講料:無料 材料費実費 会場:実習室	59,000	0
15	書道講座 書き初め 大字に挑戦!	小学生を対象に伝統文化である「書き初め」を行った。特大筆(全長46cm、穂の長さ14.5cm、穂の直径4cm)を使って68cm×70cmの紙に漢字一字を書いた。初めに、書き初めの由来や、筆の持ち方、書く姿勢、運筆の基本などを説明し、約1時間、各自が書きたい漢字一字を制作した。1年生から5年生までの参加があり、筆を初めて持つ受講者もいたが、どの作も個性豊かで、迫力のある大字作品に仕上がった。作品は、1月中1階ロビーに展示し来館者に披露した。 日時:平成28年1月9日(土) 受講者数:17名 受講料:無料 会場:講座室・実習室	10,464	0
16	書道講座 漢字の書法を学ぶ 篆書	初めに篆書やその歴史についての講話があり、続いて実習に移った。講師より「書は人なりと言われるとおろ、筆者の心情が表れるもの。従って書の良否などはなく、楽しく書くことが大切である」とのことばのあと、甲骨文・金文・大篆で「車馬」を練習。また干支「申」「酉」「戌」を仕上げた。作品は1階ロビーに展示した。 日時:平成28年2月(全2回・各土曜) 受講者数:37名 受講料:無料 会場:実習室	46,858	0
	小計		1,578,380	0

(4) 展示事業【経費 16,093千円】

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
1	文学常設展 瀬戸内寂聴記念室 (常設展示事業)	瀬戸内寂聴の人生をたどりながら寂聴文学を紹介する。嵯峨野「寂庵」を模した書齋や、心和ませる日本庭園を設置している。年4回の展示替えを行った。 期間:通年 会場:瀬戸内寂聴記念室		- 常設展観覧料に含む
2	文学常設展 文学常設展示室 (常設展示事業)	徳島の人・場所・文化が織りなす文学回廊。徳島にゆかりの深い文学者とその作品、徳島を描いた文学作品などをさまざまな角度から感じとれる展示としている。展示室内では、年2回の小テーマ展を開催した。 期間:通年 会場:文学常設展示室		- 常設展観覧料に含む
3	文学常設展 収蔵展示室 (常設展示事業)	瀬戸内寂聴寄贈による日本近代女性史の貴重な研究資料など、豊富な資料を保管している収蔵庫内をガラスウォールを通して展示している。また、特別展に関連した展示や収蔵品を紹介する展示をした。 期間:通年 会場:収蔵展示室		- 常設展観覧料に含む
4	書道常設展 書道美術常設展示室 (常設展示事業)	徳島ゆかりの書家を中心とした豊かな書の世界が広がる展示室。年3回の展示替えを行い、収蔵している豊富な作品等を広く紹介している。本年度は「戦後活躍した書家たち」「新収蔵の書Ⅰ」「徳島ゆかりの書Ⅰ」を開催した。 期間:通年 会場:書道美術常設展示室		- 常設展観覧料に含む
5	文学特別展 寂聴 愛のことば展 (特別展示事業)	一貫して「愛」を描き続けてきた瀬戸内寂聴の小説、随筆、インタビュー、講演などから、さまざまな愛に満ちた言葉66を選び、著書や原稿、関連する美術品や写真、資料とともに展示した。101の言葉を収録した文庫本「寂聴 愛のことば」も図録として発行した。関連事業として、「寂聴の最新映像」上映会、高橋源一郎講演会、テーマ朗読会、「文学書道館で『愛』を語る」イベントを実施した。また、1階ロビーで寂聴法話のビデオ上映と愛のことば優秀作の展示を行った。 会期:平成27年4月25日～5月31日 33日間 入場者数:541名 観覧料:255円～510円 会場:特別展示室・ギャラリー	2,084,687	177,860

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
6	書道特別展 とてつもない書 一米山の大字 (特別展示事業)	江戸から明治に生きた伊予の神官、三輪田米山の大字書37点を展観した。米山は、造形主義的な書を開拓していった近代の書の中にあって異端といえ、古今みられない独創的な書を残している。その評価は高く、ファンも多い。本展では、出展作のおよそ半数を大阪新美術館建設準備室より借用し、代表作や傑作を展示した。なお鑑賞の手引き、語句の出典や意味をキャプションに付した。関連事業として、講演会、作品解説、展示解説を行った。 会期:平成27年6月20日～8月2日 38日間 入場者数:1,564名 観覧料:255円～510円 会場:特別展示室・書道美術常設展示室	4,232,330	256,545
7	文学特別展 戦後70年 文学に描かれた戦争—徳島ゆかりの作品を中心に (特別展示事業)	戦争がいかにかにもなき市民の命を無残に奪い、家族の運命を狂わせるか。戦後70年を迎えた今年、瀬戸内寂聴や森内俊雄、海野十三ら徳島ゆかりの文学者の小説や詩、短歌、俳句を紹介し、戦争を知らない世代に悲惨な戦争の記憶を手渡した。関連事業として、講演会、展示解説、テーマ朗読会を行った。 会期:平成27年8月7日～9月23日 42日間 入場者数:596名 観覧料:255円～510円 会場:特別展示室・収蔵展示室	901,688	168,225
8	書道特別展 小坂奇石の大作展 (特別展示事業)	昭和を代表する書家・小坂奇石は数多くの名品を残しているが、今回は「大作」をテーマとし、迫力のある大字や、12幅・屏風などの大作を中心に、個人及び当館の所蔵品から選りすぐりの28点を展観した。出品作のうち、個人所蔵の縦3メートル余りの席上揮毫の超大作は、展覧会初公開であった。作品には釈文のほか、読み下し文、語句の意味、出典、作品の見どころ解説を付し、観覧者にわかりやすい表示とした。関連事業として、講演会と作品解説を行い、また、1階ロビーでは小坂奇石に関するビデオ上映を行った。 会期:平成27年10月3日～11月11日 34日間 入場者数:745名 観覧料:255円～510円 会場:特別展示室・ギャラリー	1,854,252	157,195

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
9	文学特別展 柴門ふみの世界 (特別展示事業)	徳島市出身で漫画家、エッセイストとして活躍する柴門ふみ。漫画原画を中心に展示し、デビュー前から近作まで、柴門の作品世界を紹介した。1階ギャラリーには漫画の単行本やエッセイ集を並べ、実際に手にとって読めるようにした。関連事業として、柴門ふみのトークショーとテーマ朗読会を行った。 会期:平成27年12月19日～ 平成28年2月7日 38日間 入場者数:605名 観覧料:255円～510円 会場:特別展示室・ギャラリー・収蔵展示室	2,919,064	203,740
10	書道特別展 屏風の書—中林梧竹と 明治の諸家— (特別展示事業)	屏風の書をテーマとした特別展。屏風は長い歴史の中で日本に根付き、各時代を通して多くの人に愛でられてきた。本展では、明治時代に活躍した書家・中林梧竹を中心に10人の諸家の屏風計18点を展観した。初公開となる当館所蔵の中林梧竹「臨 十七帖」をはじめ、成田山書道美術館や個人蔵の名品を展示し、スケールの大きな屏風書の魅力を紹介した。関連事業として、講演会と展示解説を行った。 会期:平成28年2月16日～3月21日 31日間 入場者数:452名 観覧料:255円～510円 会場:特別展示室・書道美術常設展示室	1,622,335	95,510
11	文学企画展 羽尻利門 絵本の世界展 (企画展示事業)	阿南市在住の絵本画家・イラストレーターの羽尻利門の最新刊「あいつとぼく」、「二十四節気の絵本」、くすのきしげのりとの徳島コンビ絵本「やめるスカタン！」の原画を中心に、文章パネルとともに展示。ノスタルジーあふれる自然の風景や伝統行事、愛らしいこどもの表情を描いたその絵は親しみやすく、老若男女に支持され、多くの来場者を得た。関連事業として、羽尻利門のギャラリートークを行った。 会期:平成27年6月2日～10日 8日間 入場者数:697名 観覧料:無料 会場:ギャラリー	771,369	0
12	文学企画展 収蔵品展 橋本夢道—俳句と書 (企画展示事業)	藍住町出身の橋本夢道は自由律俳句を志して「層雲」に入門。次第にプロレタリア俳句を作るようになる。今回、当館が所蔵する直筆の軸14点、色紙35点、短冊14点などを展示した。夢道独特のユーモアにあふれる句が、自由に伸びやかに書かれている。県内外から数多くの夢道ファンが来場したほか、徳島中学校、鳴門教育大学附属小学校の生徒も観覧した。 会期:平成27年6月2日～10日 8日間 入場者数:447名 観覧料:100円～300円 会場:特別展示室	79,911	常設展観覧料 に含む

	事業名	概要	経費(円)	収入(円)
13	書道企画展 徳島県高校生 第5回 書道席書創作コンクール展 (企画展示事業)	5回目を迎えた当コンクールは、県内9校より258点(漢字167点、漢字仮名交じり58点、仮名33点)の応募があった。その中から各部門15点(15人)を選出し、11月15日(日)に本選を実施。11月22日(日)に本選審査が行われ、各部門の受賞者を決めた。作品は、12月5日(土)から13日(日)まで当館ギャラリーにて展示し、表彰式は12月13日午後2時より行った。 会期:平成27年12月5日～13日 8日間 入場者数:393名 観覧料:無料 会場:ギャラリー	721,443	—
14	書道企画展 「今年の一文字」展2015 (企画展示事業)	年末の恒例行事となった「今年の一文字」展。気軽に「書」に親しんでもらう機会として開催している。2015年を振り返って、世相を象徴する漢字、あるいは個人的に印象に残ったことなどを漢字一文字にして、ハガキに毛筆で書いた作品を募集した。601点(265字)の応募があり、すべての作品を展示した。一番多かった漢字は「新」。理由は「新しい生活を始めたから」「新しいことに色々挑戦できたから」などであった。昨年と同様、明るい意味の漢字が多く寄せられ、前向きな気持ちがかがえた。 会期:平成27年12月12日～27日 14日間 入場者数:545名 観覧料:無料 会場:1階ロビー	8,262	0
15	文学企画展 収蔵品展 野上彰と「銀座の雀」展 (企画展示事業)	徳島市新内町に生まれた詩人・野上彰が作詞し、森繁が歌った「銀座の雀」は、昭和二十年代、日本の新しいシャンソンといわれて評判になり、数年後、日活映画「銀座二十四帖」の主題歌になり有名になった。一昨年、その歌詞の直筆が見つかった。この新資料を中心に展示し、「銀座の雀」誕生のエピソードや当時の銀座の様子などを交え、紹介した。 会期:平成28年1月23日～3月27日 56日間 入場者数:785名 観覧料:100円～300円 会場:文学常設展示室	167,630	常設展観覧料を含む
16	書道企画展 紙にこだわった書道展 (企画展示事業)	書作品に使われている紙の視点から書を鑑賞する企画展を開催した。徳島県内で活躍する20人に揮毫を依頼し作品を展示したほか、作者による「作品のみどころ・工夫、苦心した点」や「紙へのこだわり」を紹介。さらに、作者から提供していただいた作品に使用された紙と、書に用いられるさまざまな紙に触れることができるように展示し、紙の厚さや手触りを体験してもらった。関連事業として、講演会と1階ロビーでのビデオ上映を行った。 会期:平成28年2月16日～3月21日 31日間 入場者数:883名 観覧料:無料 会場:ギャラリー	730,070	0
	小計		16,093,041	1,059,075
	合計		19,326,259	1,059,075